

# 名古屋同志社人クラブ

会報

第11号

発行 2016年6月

●事務局/名古屋市中区丸の内2-2-7  
丸の内弁護士ビル301号 山田靖典法律事務所内

## 同志社卒後50年法学研究会同期生の集い

新田 孝彦 (S41法)

本年(2016年)3月16日(水)に、昭和41年同志社大学法学部を卒業し卒後50年を迎えた、法学研究会(法研)の仲間9人と筆者(愛知県知多市在住 秋山ゼミ)が、京都の老舗料理旅館「鶴清」に集い、学生時代の思い出話などに花を咲かせました。

このことについて、「名古屋同志社人クラブ」会報の編集子より同誌に掲載したいと、寄稿要請がありました。そこで、出席者に感想等なんでもありで執筆を依頼したところ、快諾していただき、原稿が集まりましたので後掲します(アルファベット順)。

さて、小沢君、渡辺君によれば、柴田幸彦君(福岡県中間市在住 秋山ゼミ)が、現在病気療養中で、症状は立歩行困難ではあるものの言語については不自由はなく、右手が利くので食事は自分で摂れるとのことでした(人間、食べ物を摂取できることは生きているという証であり、最大の楽しみであると思われます)。

そこで柴田君宅へ電話したところ、奥さんが出られて本人と代りますとのこと、柴田君に代わられました。本人の一言は「命があって…(良かった)」とのことでした。小生は、その一言の言葉に感嘆し、奥さんに対し体に気を付けて、たまには息抜きをなさってくださいと続けたら、奥さん曰く、以前から主人にテニスの許しを得ていますので…とのことでした。一瞬その言葉を聞いて、彼は亭主関白だろうと感じたのであります。

ところで、連絡がとれない男がいます。能口武昭君(山口県豊浦町 小橋ゼミ)ですが、この紙面をお借りして、どなたかご存知であれば御一報いただければ幸いです。

坪木君の話の中で、刑法総論の〇〇教授は休講が多かったとか、刑事訴訟法の〇〇教授は内容は良くわかったとか、行政法の〇〇教授の試験問題は30字以内で述べよとか、先生方の思い出話が出ました。

また、小沢君の話では、我々3回生の時の境港(鳥取県と島根県境)での合宿の夜、島根大学教授の